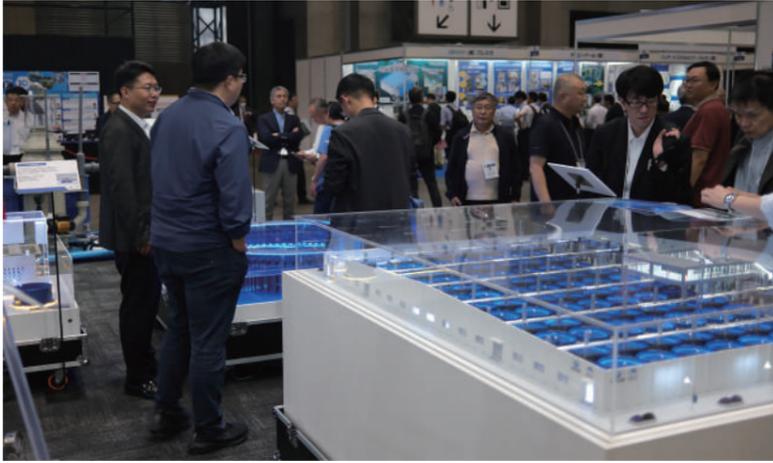




アクアポニックス・陸上養殖設備展 NEWS

発行元
 アクアポニックス・陸上養殖設備展NEWS編集室
 〒100-0013
 東京都千代田区霞が関1-4-2
 大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内
 TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620
 E-mail:ofc@gpec.jp

市場拡大を追い風に 陸上養殖ビジネスの商談拠点



近年、水産資源の変動や輸入価格の上昇を背景に、天候や海況に左右されない安定供給手段として陸上養殖への関心が高まっている。なかでも、飼育水を循環利用するRAS（閉鎖循環式養殖）技術は、水使用量の削減や疾病リスクの低減、計画的な生産体制の構築を可能にする手法として注目を集めている。

国内においても産業化の動きは加速している。丸紅が国産アトランティックサーモンの販売を開始したほか、三菱商事とマルハニチロによる大規模施設計画が進行するな

関心高まる陸上養殖 新たなフェーズへ

アクアポニックスと陸上養殖をテーマとした国内唯一の専門展示会「アクアポニックス・陸上養殖設備展2026」が、7月15日（水）から17日（金）までの3日間、東京ビッグサイト南ホールで開催される。アクアポニックスおよび陸上養殖に関わる事業者に加え、新規参入を検討する企業や団体の来場が見込まれている。出展申込締切を目前に控え、事務局には問い合わせが急増している。本紙では、本展示会の概要とともに、陸上養殖およびアクアポニックスを取り巻く最新トレンドを交えながら紹介する。

国内唯一のアクアポニックス・陸上養殖の展示会 今夏開催に向けて出展募集中

ど、大手企業の参入が相次いでいる。さらに、通信や建設など異業種からの参入も広がり、地域振興や食料安全保障の観点からも期待が高まっている。

陸上養殖は海面養殖と異なり、漁業権を必要としないケースが多いことから立地の自由度が高く、自治体にとっても企業誘致を進めやすい利点がある。一方で、排水管理や食品衛生管理など関連法規への対応、電力コスト対策といった運用面の整備は依然として重要な課題である。実証段階を経て量産フェーズへと移行しつつある陸上養殖は、水産業の枠を越えた「新たな食料インフラ」としての位置付けを強めている。

スマート水産業を支える 技術・設備が一堂に集結

安定供給や環境負荷低減への関心が高まるなか、本展にはスマート水産業を支える多様な技術・設備が一堂に集結する。会場では、水質管理や飼育環境制御、各種ろ過装置、酸素供給装置、IoT監視システムなど、閉鎖循環式養殖（RAS）の運用に不可欠な製品・サービスを幅広く紹介。導入検討段階から実証、事業化までを具体的に描ける展示構成となっている。

アクポニは収益化を見据えた4タイプのプラントモデルを提案。アイエンターはA-1魚体サイズ測定カメラやIoT水質センサーなどIoT技術を活用した機器を展示し、石垣は全自動上向流式急速ろ過機を出展



する。宇部工業は新技術による高効率な酸素供給方法を提示し、三相電機は酸素溶解供給装置を披露する。プラントフォームはスマート陸上養殖およびアクアポニックスシステムを紹介し、アクアインパルスは高精度かつ超コンパクトな機械式ろ過フィルターを展示する。

さらに、ARKはモジュラー型循環式陸上養殖システムと管理アプリを提案。アメフレックは特殊空調設備を活用した高度な環境制御を示し、イズミ技研は新開発の陸上養殖用DCモーターポンプを出展する。ティビーアールは生物処理装置や人工海藻、稚エビ・稚貝付着器を紹介。東芝ライテック、プレスカも関連機器・システム技術を披露する。

センシングからろ過、酸素供給、空調・電力、運用支援まで、養殖事業に必要な要素技術を横断的に比較検討できる点が特長である。水産企業にとどまらず、建設、エネルギー、IT分野など異業種からの参入検討にも資する専門展示会として、実証から本格導入へと進むスマート水産業の動きを後押しする場となる。

参入検討者の来場を喚起 セミナー連日開催

本展では、陸上養殖およびアクアポニックスの事業化を多角的に学べる専門セミナーを連日開催する。事業者や関連企業のトップ、省庁関係者らが登壇し、実践的かつ具体的なテーマを提示する。本紙では、講演予定のセミナーの一部を抜粋して紹介する。

アクポニ代表取締役の濱田健吾氏は、最新の市場動向を踏まえながら、収益化に向けた複数の展開モデルと導入時の留意点を解説する。NTTグリーン&フード代表取締役社長の久住嘉和氏は、循環型陸上養殖による食料・環境課題への取り組みを紹介し、異業種企業が参入する意義と将来性を示す。さらに、プラントフォーム代表取締役CEOの山本祐二氏は先進的な陸上養殖システムの実装事例と事業戦略を紹介する予定だ。水産庁からは届出制度や出荷数量の動向が説明され、制度面の理解を深める機会となる。

技術、経営、制度の各側面から最新情報を得られる構成であり、参入を検討する企業にとって事業化の指針を得る機会となるとともに、既存の養殖事業者にとっても最新動向の把握や経営高度化につながる内容となっている。

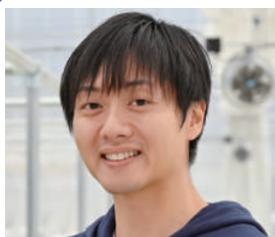


セミナー紹介



水産庁
 増殖推進部 裁培養殖課
 事業転換指導企画官
 渡邊 久爾 氏

陸上養殖業の届出と
 出荷数量の動向



(株)プラントフォーム
 代表取締役CEO
 山本 祐二 氏

講演テーマ
 調整中



NTTグリーン&フード(株)
 代表取締役社長
 久住 嘉和 氏

循環型陸上養殖を通じた
 食料問題・環境問題解決への
 挑戦



(株)アクポニ
 代表取締役
 濱田 健吾 氏

アクアポニックスの最新動向と
 収益化に向けた
 5つの展開モデル



**アクアポニックスの事業化
国内での展開広がる**

魚類養殖と水耕栽培を組み合わせたアクアポニックスは、排水を出さずに生産を循環させる手法として注目を集めている。魚の排泄物を微生物が分解し、その養分を植物が吸収する仕組みにより、肥料使用量を抑えながら野菜と水産物を同時に生産できる点が特長である。近年は環境負荷低減や資源循環への関心の高まりを背景に、教育機関や自治体による実証事業に加え、商業化を目指す取り組みも増加している。

国内では、レストラン併設型の小規模施設から大型温室を活用した事業化モデルまで形態が多様化している。都市近郊における地産地消型生産としての期待も大きい。特に陸上養殖技術の普及に伴い、水質管理や環境制御のノウハウが蓄積・共有され、農業と水産業の垣根を越えた新たな生産方式として関心が高まっている。

**同時開催展GPEC
との相乗効果も**

さらに、食品残渣の活用や再生可能エネルギーとの組み合わせなど、地域循環型ビジネスとしての展開も模索されている。アクアポニックスは単なる環境配慮型技術にとどまらず、教育、観光、地域振興と結び付いた複合的な産業モデルとして、国内で着実に定着が進んでいる。

本展は、「施設園芸・植物工場展(GPEC)2026」と同時開催となる。GPECは日本施設園芸協会が主催する、「施設園芸」「植物工場」をテーマとした専門展示会である。2年に1度、東京ビッグサイトで開催され、今回で9回目を迎える。国内唯一の施設園芸・植物工場専門展として業界内での知名度・関心度は高い。

アクアポニックスは養殖と栽培を組み合わせた生産方式であり、水質管理や環境制御、エネルギー利用といった基盤技術は施設園芸と多くを共有する。温室の環境制御装置や養液管理技術、IoTによる遠隔監視システムなどは、水産分野でも応用が進み始めている。

実際、センサーや制御機器、ポンプ、ろ過技術、温度管理設備などを扱う企業の中には、農業と水産の両分野に提案を広げる動きも見られる。施設園芸では安定生産、水産分野では計画養殖を目指すという共通課題があり、来場者は両展示会を横断的に視察することで、生産システム全体への理解を一層深めることができる。

近年は農業と水産業を分けて捉えるのではなく、資源循環型の食料生産として統合的に考える流れが強まっている。両展示会の連携は、循環型農業およびスマート水産業の実装を後押しする重要な機会となる。

**3月末まで
申込受付を継続**

同展は2月末を出展申込締切としているが、事務局には依然として問い合わせが相次いでいる。事務局では、会場レイアウトに着手する3月末までは可能な限り出展申込を受け付ける方針である。ただし、会場スペースには限りがあるため、出展を検討している企業に対し、早めの問い合わせを呼びかけている。



アクアポニックス・陸上養殖設備展2026 / 施設園芸・植物工場展(GPEC)2026 出展者一覧

2月25日現在
(共同出展者、一部検討中含む)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| <p>あ</p> <ul style="list-style-type: none"> ARK アイエンター アキレス アクアインパルス アクポニ アメフレック アリアンテック・ジャパン 有光工業 イーズ 石垣 イズミ技研 いと 伊東電機 イノチオアグリ イノベックス 揖斐川工業 イリテック・プラス 宇部工業 AGCグリーンテック NDK ECO AGRO MKVアドバンス LS-LINKS 大阪公立大学植物工場研究センター オカモト OSMIC FOODS オムニア・コンチェルト <p>か</p> <ul style="list-style-type: none"> 木楽創研 クボタ グランドグリーン グリーンテックアンドラボ | <p>恵葉&菜 健康野菜</p> <p>高圧ガス工業</p> <p>国際農業社</p> <p>コスモスエンタープライズ</p> <p>さ</p> <ul style="list-style-type: none"> サイデック サカタのタネ 佐藤産業 ※ジャパンマグネット 三基計装 サンキンB&G 三相電機 サンホープ サンポリ サンリット・シードリングス JFEエンジニアリング ※Priva ジャパンドームハウス ジャパンプレミアムベジタブル スナオ電気 住化積水フィルム セイコーステラ 西部技研 誠和。 セムコーポレーション 泉州電業 <p>た</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイキン工業 大仙 ダイヤテックス 高田種苗 | <ul style="list-style-type: none"> ※ライク・ズワーン社 タキゲン製造 タキロンシーアイ 鶴見製作所 ティビーアール デルフィー・ジャパン 東海テクノ 東海物産 東京インキ 東芝ライテック 東都興業 トミタテクノロジー ※プリバ社 ※リッシェル グループ トヨタネ <p>な</p> <ul style="list-style-type: none"> 日建リース工業 日東工業 日本施設園芸協会 日本養液栽培研究会 日本ワイドクロス NEXYZ. ネポン 農研機構 野菜花き研究部門 ノーユー社 ※TAVLIT ※NUfiltration <p>は</p> <ul style="list-style-type: none"> ハカルプラス ヒラカワ FieldWorks | <p>福井県</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井シード フタバ産業 フタムラ化学 プラントフォーム フルタ電機 プレスカ 兵神機械工業 ベストクロップ ホーグス ホタルクス <p>ま</p> <ul style="list-style-type: none"> まちだシルク農園 みのる産業 明治大学 植物工場基盤技術研究センター <p>や</p> <ul style="list-style-type: none"> やまこうファーム ヤンマーグリーンシステム ユビキタス環境制御システム研究会 <p>ら</p> <ul style="list-style-type: none"> loadoff ※エムエーエスインターナショナル <p>わ</p> <ul style="list-style-type: none"> 渡辺パイプ <p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"> HWASUNG INDUSTRIES Jiangsu Guangman New Materials PLASTIKA KRITIS |
|--|--|---|---|

出展募集中

出展に関する
お問い合わせ



GPEC事務局 / アクアポニックス・陸上養殖設備展事務局
 TEL:03-3503-7703 MAIL:ofc@gpec.jp
 WEB:www.gpec.jp www.gpec.jp/aqua/

